

テーマ

「聞き書き」ボランティア養成講座

申請者 ニノ坂 保喜

2014年度前期

平成27年1月27日提出

聞き書き研修報告書

今回、「聞き書き」講座を全国展開している、小田豊二先生を講師にお招きして、福岡市及び、北九州市で、在宅ホスピス聞き書き講座を開催しました。「聞き書き」は、話し手にインタビューしてその方が語る人生の物語りを聞き、その人の言葉のままで文章化して世界で一つだけの本を作ることです。

この講座の受講生は、すでに在宅ホスピスボランティアの実践者も多く参加しており、人生最期の時に語られる物語りをその人だけの大切な本にして残してあげたいとこの講座に参加されました。参加者は福岡会場 38名、北九州市 31名です。11月24日、25日、12月13日14日の1会場2日間の研修でした。初日の午前中は、小田先生の「聞き書き」とは何か、テキストをもとにユーモアいっぱいの楽しい講義があり、先生から出された例題を演習しました。先生は昼休憩の間に、受講生の原稿を添削し、午後の講義のなかで「聞き書き」のポイントを指導されました。

また、午後の時間で、ご主人を亡くされた遺族の方に先生がインタビューしてお話を聞き、「聞き書き」の練習をしました。語られる話の中から、どこ部分を切り取ってまとめていくのかは受講生自身で考えて、次回までに1冊の本の形にすることが宿題となりました。

2日目は、前回の宿題のとなった「聞き書き」の作品を受講生が発表し、その作品について先生が温かい言葉で講評され、皆で「聞き書き」の実際を深く学ぶことができました。同じ話を聞いているのに、受講生の作品は同じものではなく、聞いたときの受講生の思いで、それぞれの受け止め方が異なり、多様な作品になっているのがおもしろく、考えさせられました。

受講生の皆さんは、熱心に取り組まれており、小田先生もそれぞれの作品に感動されました。

「聞き書き」はその人の語りを聞かせて頂き、その人のことばで文章に書いていくことを特徴としていますが、そのことが語り手の生きてきた人生をよりいきいきと映し出し、その人自身の大切な物語が出来上がるのだと実感しました。

2日間通して参加された方には講座修了書を差し上げました。受講生から、「今回の講座に参加して大変よかった。聞き書きを続けたい」という声をたくさん頂きました。

福岡会場では講座終了後、さっそく「聞き書きボランティア」のグループを作るための話し合いが持たれました。在宅ホスピスにおいても、その人の世界で一つだけの本を作るお手伝いができたら素晴らしいプレゼントになることと思います。

今回の講座だけで終わるのではなく、継続して「聞き書き」の研修をおこない、皆で研鑽していくことができたらよいと考えました。

「公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団の助成による」



「聞き書き」をはじめよう

講師 小田 豊二



話を聞かせていただいて、それをその方の**話し言葉**で書きとり、**世界でただ一冊の本**にすることを「聞き書き」と言います。話し言葉には方言や語り口が含まれ、語り手の人となりが自然に浮び上ります。聞く人には豊かな情感が伝わり、共感が生まれます。

今、全国の看護、介護、福祉関係者やボランティアの間で、静かに広がりつつある「聞き書き」活動に「ふくおか在宅ホスピスをすすめる会」も参加します。傾聴からさらにもう一步、相手の傍に寄り添う楽しいコミュニケーションツール「聞き書き」をはじめましょう。講師は、「聞き書き」の第一人者、作家の小田豊二先生です。インタビューでは、在宅で看取りをした方のお話を聞きます。

第1回	福岡会場	2014年10月25日(土)	10:00~16:00	ふくふくプラザ 502
	北九州会場	10月26日(日)	10:00~16:00	小倉記念病院 4F 会議室
第2回	福岡会場	2014年12月13日(土)	13:00~16:00	ふくふくプラザ 502
	北九州会場	12月14日(日)	13:00~16:00	小倉記念病院 4F 会議室

□参加費 無 料 / 資料代 1,500 円 (ワークブック代も含む)

講義内容と時間

第1回(初日) 午前 10:00 開講~12:00

①「聞き書き」とは何か ②「聞き書き」の方法 ③小さな宿題(小田先生から)

午後 13:00~16:00

④小田先生によるインタビュー(*) 1時間程度 ⑤聞き方など

宿題: 第2回目の講義(11月末日〆切)までに、受講者は小田先生のインタビュー*を「聞き書き」にして提出(木星舎に送る)。第2回の授業の教材とし、全員の聞き書きを小田先生の講評を交えて話し合う。

第2回(二日目) 午後 13:00~16:00

⑥各人の宿題の講評 ⑦「聞き書き」本のつくり方

参加者が用意するもの

筆記用具/ワークブック『「聞き書き」をはじめよう』

録音のためのレコーダー(ただし、レコーダーを持たない方には、CDにプリントしてお渡しします)



□お申込は、裏に必要事項をご記入の上、FAXしてください。FAX 092-894-5580

□お問合せは、「聞き書き」教室事務局 緩和ケアセンターコミュニティ TEL 092-834-6741 へ

誰でもできる聞き書き講座 IN 福岡・小倉

聞かせてください、あなたの人生

楽しい聞き書きをやってみませんか！

いま、全国で「聞き書き」という方法、技術を通して、病院や老人施設、さらには、在宅介護などの現場で、さまざまな福祉活動やボランティア活動が行われています。

（「傾聴」や「回想法」をさらに深めた方法として、今後も期待される）

皆さんも、「聞き書き」をすることによって、人生の先輩から歴史、技術、生き方、生活の知恵などを学びませんか。

お年寄りがひとり亡くなると

地域にひとつ図書館が消える

とされています。

聞き書きとは

人生の先輩の話を聞いて、それを記録し、後世に残すことです。

それには、必ずしも特別な技術はいりません。

おばあちゃんの場合で言えば、子供の頃の話からいままでの長い人生のなかで、「楽しかったこと」「うれしかったこと」「つらかったこと」「悲しかったこと」を思い出して話してもらえれば、それだけでも、その方の立派な「生きてきた証」になるだけでなく語られる一言ひと言が私たちへの教訓になるのですから。そのなかで、私たちは、人生の先輩であるお年寄りたちからきっと多くのことを学ぶでしょう。

また、やっていただければおわかりになりますが、語り手の話を「聞いて」、それを話し言葉で「書く」だけで、語り手にも素晴らしい効果が現れます。

- 忘れていた記憶が蘇り、お年寄りの脳が動き出す。
- こちらが学ぼうとすれば、お年寄りが「まだ必要とされている」実感を得る。
- 本にして差し上げることによって、話し言葉による自分史ができる。

聞き書きの目的

- (1) 歴史を残しておく
- (2) 人生の先輩からたくさんを学ぶ
- (3) お年寄りに生きがいを

お年寄りは、いま、話したがっている
聞かせてもらおうよ、あの方の人生を
語りたんだよ、これまでの苦勞を
伝えたいんだよ、自分の知識や技術を
そして、認めてもらいたいんだよ、生きてきたことを

聞き書きの方法

- (1) 語り手を見つけ、その人の人生を聞き、後世に残す
- (2) テーマを先に決め、そこから語り手を探す

語り手の見つけ方

- 1 自分が「あの人の話を聞いてみたい」と思う人を探す
(一般的には、両親・親戚・知人など)
- 2 関係者の了解のもと、相手を選んでもらう。
- 3 語り手の了解を本人ならびに家族から得る→信頼関係
(知らない人の場合は、間に紹介者を入れる)

語り手が了解したら

- 1 話を聞く前に前もって、語り手の人生の社会的背景を調べる
(生年月日・家族構成・土地の歴史・時代背景)
- 2 実際にはじめたら、一日三時間より一時間三回
(初心者でも、とりあえずまとめてみよう。ただし、聞いたらず聞き書きを完成すること)

用意するもの

- 1 ICコーダーまたはテープとレコーダー (テープは三十分ほど)
- 2 ノートと筆記用具

語り手に聞く内容（10回聞く場合）

（85歳の人的人生は、85年ではない！）

- 1 まず大切な「**現在**」
いま、どんな気持ちで、どう暮らしていらっしゃるか。体の調子はどうか。
なにが楽しみか。困ったことはないか。なにかできることはないか。
- 2 **誕生**
父・母・祖父母・兄弟姉妹・生まれた土地・名前の由来・その土地の四季など。
- 3 **少年（少女）時代**
時代背景（戦争が迫っていたとか）・育った町や村の様子・遊び・学校・先生
同級生・お弁当・遠足・運動会・学芸会・唱歌・授業・正月の様子・祭り
- 4 **青年（娘）時代**
兵隊検査・出征兵士・食事・流行歌・好きだった俳優とか歌手・スポーツ
初恋・町や村でのできごと
- 5 **戦争**
戦争中の様子・苦しかったこと・戦時下での生活
- 6 **結婚**
つれあいとの出会い・相手の家・相手の両親・新婚生活・子供誕生の話
子供の名前の理由・子への思い・そのころのエピソードや思い出
- 7 **仕事（家庭生活）**
そのころの仕事の様子・大変だったこと・成功と失敗・教訓（男性）
料理・洗濯・身づくろい・子育て（女性）
子供の教育・しつけ・冠婚葬祭のやりかた
- 8 **息子や娘の結婚**
息子（娘）への成長への思い・嫁へのいたわり・孫の誕生の喜び
- 9 **あなたへ**
いま振り返ってみて、いっしょに生きてきた伴侶への思い
- 10 **孫へ まだ見ぬひ孫へ**
ここまで生きてきた自分の人生を通して、孫へ、まだ見ぬひ孫へ伝え残しておきたいこと※これだけいねいに聞けば、かなりの大作ができますが、初心者の場合は、「私の少年時代」とか、「私と戦争」とか、「私があなたと同じ年のころ」とかでも語り手にとっての大切な作品になります。

原稿のまとめ方

- (1) 上の例でいけば、各(1) (10)にそれぞれ別のテープを用意し、その日はそれだけ聞く。
- (2) そして、それぞれのノートに聞いたことを書き写す。
- (3) そのノートから、新たな原稿を作る。その際、話の内容ごとに見出しをつける。(学校とかお祭りとか) →これを全員でひとつのテーマでやると、貴重な庶民史になる。
新たな原稿は、必ずしも言った通りでなくてもいい。ここに聞き書きの楽しみがある。
- (4) 語尾・方言・独特の言い回しなど、その人だけの言葉を大切にす。
- (5) 語り手の気持ちになって書く。
- (6) 書き終えたら、語り手及び語り手の家族の了解を得る。

話を聞く時の注意事項

- (1) 語り手が話したいところを聞く。(取材と聞き書きのちがい)
- (2) つねに語り手の気持ちになって聞く。
- (3) 聞き手は、語り手から学ぶ気持ちをつねに持つ。
→今日、会う人は私の先生だ
- (4) 太鼓とバチの関係
- (5) なるべく横に座って聞く。聞く場所を変える。
- (6) 次に会う日を決めておく。

原稿を書く時の注意事項

- (1) 人の悪口は聞いても一切書かない
- (2) 明らかなウソの場合、記憶違いの場合は直すが、決してウラをとらない(信用する)
- (3) 同じことを何度も言われても、はじめて聞いたように聞く。
- (4) わからない言葉が出てきたら、同年代の人に聞き、確かめる。

聞き書きを完成させ、世界でたった1冊の本を作り、相手に読んでもらおうと、どの人も感謝します。そして、聞き手はその感動をともにすることによって、自分がお年寄りからたくさんのお話を学んだ喜びを味わうことでしょう。そして、なにより、お年寄りが元気になる「瞬間」を共有できるのです。

「聞き書き」例題

次の会話を「聞き書き体」に直しなさい。

「おばあちゃん、こんにちは」

「ああ、あんたか、はい、こんにちは」

「今日は、おばあちゃんの昔話を聞こうと思って」

「あたしの？ 別におもしろい話なんか、ないよ」

「おばあちゃん、若い頃、デパートガールだったんだって」

「ああ、そうだよ」

「どこのデパートで働いていたの？」

「山城屋デパート。門司港にあったんや。私が働いていたのは戦前だけど、すぐくはやっていたんだよ。上海まで進出したりして」

「へえ、いまはないの？」

「うん、いまはマンションになってる」

「じゃあ、おばあちゃん、モテたでしょ？」

「いやあ、私はそうでもなかったけど、友だちは付文とかされて」

「付文（つけぶみ）って？」

「ラブレターのことだよ」

「へえ、お客さんから？ おばあちゃんももらったの？」

「うん、死んだおじいちゃんから毎日、毎日。ああ、若い頃のことを思い出したよ、おかげでさ」

聞き書き体

はい、こんにちは。ああ、あんたか。

しばらく会わなかったけど、元気だったかい？

え、なんだい、改まってさ。私の若い頃の話？ おもしろくないよ、別に。

そうだよ、私はデパートガールだったんだよ。門司の山城屋百貨店というところに勤めてたの。私が働いたのは戦前だけど、すぐくはやったデパートでね、上海まで進出してたんだよ。

ああ、もてたなあ。友だちなんか付文されてね。私かい？ 私ももらったね、死んだおじいちゃんから毎日、毎日。ふふふ。思い出しちゃったよ、若い頃を。あんたのおかげでさ。

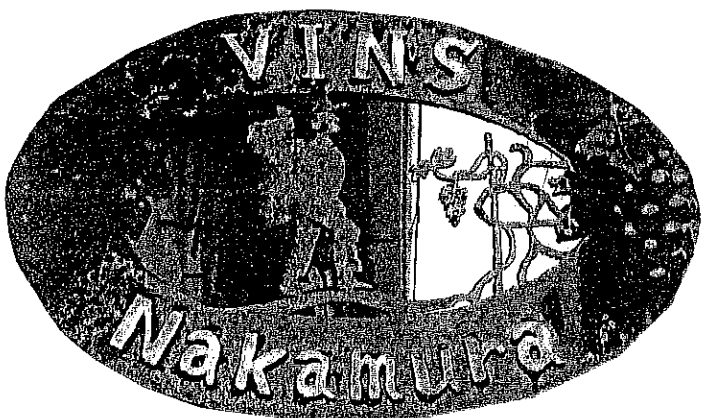
聞き書き練習問題

次の会話を「聞き書き体」に直しなさい

「こんにちは。おばあちゃん、いま、一人暮らし？」
「ああ、あんたか。そうだよ、主人が亡くなってから、ずっと」
「寂しくない？」
「もう寂しくなんかないな」
「ご主人とはお見合い結婚？」
「ああ、お見合いだけでも、最初、断られてな。私の父親を気にいらなくて」
「え、どうして？」
「父が勝手に主人の身元を調べてたのが見つかったね。そんなに信用できないのなら、こっちからお断りだって」
「へえ、カッコいい。おばあちゃんはどうしたの？」
「ほら、当時は父親が家のなかで偉いでしょ。その父親に文句言うんだから、この人、素敵！って思って、惚れちゃったのよ。顔もひどいし、背も低いのに」
「で、どうしたの？」
「何、乗り出してきて。いやだよ、この子は。だから、断られた翌日に、ひとりで会いに行ったのよ。父がご迷惑をかけましたが、私はあなたと結婚したいですって」
「ウソ！」
「本当よ。そしたら、主人、目を白黒させて、結局、俺もお前に惚れたって」
「わー、おもしろい。もっと話、聞かせて」
「いいわよ。いい機会だから、私の人生、丸ごと聞いてくれない？ わー、これから楽しくなりそうだよ」

別紙に、この会話を、おばあちゃんの「ひとり語り」で書き直してみてください。

なお、語り手を想像して、内容を膨らませたり、補足したり、言葉を換えて[方言とか]、聞き書き体を楽しんで結構です。



語り 日野フサ子さん

でも今は幸せです

聞き書き 高橋暁子

まえがき

十月二十五日、ふくふくプラザで「聞き書き講座」がありました。

日野フサ子さんは、その日、語り手のモデルとなってくれました。約一時間、小田豊二先生が日野さんにインタビューし、受講生の私たちが「聞かせていただいた話を、日野さんの話し言葉で書いて、世界で一冊の本にする」というものでした。

日野さんは少し緊張した面持ちで入って来られ、挨拶されました。

「皆さん、こんにちわ。私、こんな人前で話すのは初めてです、ほんとに。緊張してて、ちゃんと話せるかわかりませんが、よろしくお願いします。」

小田先生の前に座られた日野さんは、インタビューに答えて、思い出したり考えたりしながらも、明るくしゃべった声で、ご自分の半生を語ってくださいました。

「ずいぶん辛いことも経験されたようですが、キツパリ「今が、現在が幸せだからこれで良かったんです。」と言う日野さんの話には、私はいつしか身を乗り出して、耳を敬てるようにして聞き入っていました。」

博多っ子です

はい。今は早良区祖原で酒屋をしています。ええ、ここの近くです。西新ですから。名前ですか。日野フサ子と言います。父から聞いた話では「フサ子」って名前は、お坊さんがつけてくれたそうです。

私は五人兄弟の真ん中で、長女です。兄が二人と妹が二人います。兄が昭和十三年、十四年生まれの子で、私は十六年生まれ。妹が十八年、二十三年生まれです。

博多っ子なんです。博多区の須崎で生まれました。港町で賑やかなところでした。そこで父は商売してました。飲食店です。

私はまだ四歳でした

ええ、そうです。兄たちも疎開はしてなかったです。ところが終戦間際に空襲に遭いましてね。焼け野原になって何もなくなつて；終戦で、父の実家の浮羽に引っ越したんです。

そうですか。あの空襲は昭和二十年六月十九日だったんですね。私はまだ四歳でしたから、記憶があんまり、はつきりとはしないんですけどね；お店の前に幼稚園がありました。そのグラウンドの防空壕から出て、橋の下に避難したらしいです。

須崎橋の下の小さな舟の上で、誰か知らない人に抱っこされていたことは微かに覚えていますが。舟の下に少し水がありましたから安全と思つて、そこに避難したんです。ええ。私は赤い水兵服を着ていたと思います。

はい。誰に抱っこされていたか、わからないんです。ほんとの記憶かどうかもわからなくて、何回も何回も聞いたから覚えていられるのかもわかりませんね。

その時、すぐ上の兄は反対方向に避難したらいいですよ。でも海の方に戻ってきたから助かったと聞きました。焼夷弾って言うんですか……よく無事だったと思います。

それからですか？空襲が収まって橋の下から上がってきたら、橋の袂にお観音様がありましてね、それに燃えた障子がばたばたあつーと倒れて来て……怖かったですね。はい。父は召集されて戦争に行っていましたから、母が四人の子どもを連れてきました。たぶん妹は小さかったから、おんぶされてたでしょうね。母は大変だったろうと思います。

そうなんです。一番下の妹は戦後生まれですから、その時は四人でした。

それから母は私たちを連れて、母の弟の家に向かったんです。今の唐人町だと思うんですけど、その時も担架に乗せられた人を見かけて……

戦時中の思い出といったらそのくらいですね。怖いことばかりでした。

昔の記憶がトラウマに

はい。住んでいた所が焼け野原になって……田舎の浮羽に引越したんです。

父は無事帰って来ました。私はそこで小中学校を出ました。

その頃の思い出ですか？それが記憶が飛んでるんです。覚えてないですねえ、あん

まり……思い出したくないのかと言われれば、そうかもしれませんが……
そんなに悪いことはなかったです。

一番記憶に残っているのが昭和二十八年の大洪水です。私が十三歳の時でした。台風で大雨が降りましてね、筑後川が氾濫しました。家や、牛や、馬や、いろんなモノが流れてきました。

家を高台に建てたばかりで、それでも水が上がってきて、舟で近くの神社に避難しました。ほんとに今でもはつきり覚えています。上流から次々流れてくるんです。

そうなんです。家とか、牛とか……諸々のモノが流れてきましたよ。恐ろしかったですね。その後、筑前川の堤防が決壊して、そっちに水が行ったので、筑後の方は助かったんです。

でも、それからが大変でした。田んぼが全部、泥で埋まりました。農業してましたからね。家は床上浸水でしたから、床下に泥がいつぱいに溜まって、これが臭いんですよ。床板を外して泥を出さなきゃならなくて、子どもの私たちも大変でした。

その頃はボランティアやら、なかったですもんね。

はい、家族全員で頑張りました。その時は病氣も流行りましたね。まだ昭和二十八年ですからね。

それ以来、台風が来ると怖くて眠れないんです。雨が怖いんです。昔の記憶がトラウマになっているんでしょうね。風も怖いんです。お店の看板が飛んでいかないかと。

ほら、お酒のメーカーの大きな看板があるでしょう。落ちてきたり飛んでいたり、人に迷惑かけないかと心配で……

はい。今は小さい看板にしましたから、大丈夫です。

御破算で願っていますはー

学校で、卓球や書道、算盤なんかも、してましたね。昔は、「読み書き算盤」って言いましたでしょ。親が、それを身につけさせたかったんだと思います。

いいえ。田舎ですから、塾なんてありません。学校の部活動でした。

兄が算盤してましてね、私も入ったんです。

はい。放課後集まって来て「御破算で願っていますはー」って先生が読み上げてくれました。部員は二十人くらいは、おったと思います。学校の試験があつて、三級まで取りました。暗算は好きでなかつたので二級は取れませんでした。大会にも出ましてね、小さな町ですけど、大会で二位になった時は嬉しかったですね。「御破算で願っていますはー」って。

ええ、どれも我流です。塾じゃないから学校で習っただけですよ。

仕事に役立ったか、ですか？そのつもりはありませんでしたけど、結果的に、習つてて良かったです。会社勤めの時も役立ちましたし、今もお店の経理を手伝っていますから。

どんな性格だったかですか？私が？そうですね……あまり人前で話せなかつたですね。どちらかと言うと、おとなしい子だったと思います。

でも最近、同窓会で言われたんです。ウフフ……男の子からですよ。「若い時から色気あつたもんねー」って！びっくりしました。そんなこと、思つてもみませんでしたから。それも秀才の男の子から言われたんです。

お互いに片思い

初恋ですか？

同級生に片思いしてました。中学生の頃です。

ええ、それがね。ウフフ……今も片思いは続いています。

彼は中学生の頃、わるそうでした。「わるそう」は博多弁で、悪とガキ大将と合わせて割つたような、そんな意味です。

彼の第一印象ですか？親御さんの職業にも由りますけどね、早熟なというか、おませなタイプでした。勉強家ではないけれど、バスケットで、カッコよかつたですね。

今では会社の会長になるまで出世したんです。お互い頑張りました。彼とは、何もなかつたから、ここまで続けられたんだと思います。何かあつてというか、ドロドロがあつたら今みたいな気持ちになれなかつたと思うんです。

はい。同窓会で毎年会いますよ。

「お互いに片思いやもんねえー」って、今は言えます。

あらっ！そんなふうに見えますか、私。ませていたんでしょかね…今まで思ったこともありませんが。だって中学生の時の文集にも「やさしかった日野さん」ってみんな書いてくれてますよ。でも、ませていたんですかねえ…そうかもしれませんねえ…色気があったなんて言われるしねえ…

はい。私は高校を卒業して会社に就職したんですけれど、月に一回、会社の講習が福岡でありましてね。彼は福岡で仕事していたので、毎回会っていました。

会ってただけど、告白することも、されることもなくて…寂しかったですね…

そうそう、最近になって写真が出てきましたね、その頃の。二十歳頃の写真です。裏に何か書いてあるんですよ。「彼女が寂しそうにしているよ」とか何とか書いてあるんです。友達が書いたんでしょうね、きっと。でも、ほんとに寂しかったですね。

その時は彼と友だちと三人で登山に行っただんですよ。何回か行きました。その頃はバイクが流行ってましてね。バイクや自転車で行きました。

片思いじゃなかったんじゃないか、ですって？そうですね…写真も大事に取ってあったんですからね。

でも最後に彼から言われた言葉が…グサツときましてね。辛かったです。

結婚しました

はい、二十二歳でお見合い結婚しました。

お見合いの話を持ってきたのは母の妹でした。酒屋の跡取り息子とのお見合いでした。私は、彼のこともあつたし、気がすすまなかったんですけど、その頃はみんなお見合い結婚だったんですよ。仲人してくれた叔母は、その酒屋のことを良く知っているから安心だし、相手は四歳年上で生活も安定しているから、と勧められて…私は仕方なく決心しました。実際は同じ年でしたけど。

それがね…

お見合いして結婚することに決めたら、彼に話したんです。そしたら何て言ったと思います？「金に目が眩んで！」って言われたんです。彼はまだ結婚できるほど、生活力がないじゃないですか。くやしかったんでしょね。

でも私は、その言葉に泣きました。ショックでした。辛かったですね。

茫然自失でした…

そうこうしている間に話は進んで…結婚しました。

そうそう、その頃の流行り言葉で「家つきカーつきババーぬき」っていうのがあったんですよ。知ってます？それでした。あつ、おばあちゃまはいました。義理の父が私のことを気に入ってくれて、迎えてくれたんです。

はい。結婚式の前に、家でお別れの会をしました。私の親戚の人が集まってですね。その時伯父が、父の兄ですけど、村のお宮さんの境内で「長持唄」を唄ってくれまし

た。それは今でもよく覚えています。

両親に挨拶ですか？それはしませんでした。

当時、お嫁入りは相手の家に入ることだから、玄関出る時に、今まで使っていたお茶碗を割ったりしてたんですね。でも母は割らなくていいと言ってくれました。そこまですなくていいって。私も、もうこの家には戻れないと覚悟していました。

結婚式は：お寺だったように思います。それが：あまり覚えていないんです：

夫はお金持ちの坊ちゃんですから、三日間結婚披露しました。

旅館でした。昼から披露宴して、夜は夫の家に帰ります。

翌日、また別の旅館で披露宴して、と三日間続きました。商売してるから、つきあいも広いでしょ。大変でしたね。

はい。着物でした。昔のことですからお色直しなんかなくて、三日間、角隠しも、つけたままでした。食事も摂れてないような状態で、私はボーっとしてました。疲れましたね。

ええ、その時のことは忘れませんでした。その後が、あまりに辛かったので吹っ飛んでしまったんです。おかしいですよ。

でも、今が、現在が幸せだから、これで良かったんです。

酒屋に嫁いで五十年

はい。今は次男夫婦と、孫の男の子二人と、義理の母と私の四世代です。

嫁いだ家も四世代でした。二人の息子に恵まれました。昭和四十年と四十二年生まれました。

でも：夫が出ちやいました。いなくなっただんです。夫のことはこれ以上話せません。ごめんなさい。

ずっと苦労続きでした。酒屋が忙しくて、私は子どもの面倒を見ることができなくなっただんです。子育てできなかったのが、ほんと辛かったですね。

実は、私も家を出たことがあるんです。二歳と四歳の息子を置いて家出しました。ひとりで夜行列車に乗って兄のところに行って、十日間、隠れてました。

その時叔父に、母の弟ですけど、言われたことが、一番、心に沁みました。叔父はこう言ったんです。

「子どもは誰の子か。おまえの子じゃないか。おまえが犠牲にならんで誰がなるかー！」私はその言葉でハッと我に返りました。「子どものために生きていかなければ！」と覚悟を決めて、それから、今まで以上に必死に働きました。我慢も重ねました。

高校を卒業して会社勤めの時、労働基準法もない時代に苦勞しましてね。掃除も事務も一人でしたから：母が心配して辞めなさいと言ってくれても頑張りました。あの時の頑張りも、きつと役に立ったと思います。

皆さんのお蔭で、ここまでやって来れました。

はい。農家の田舎娘が、何にも知らないで酒屋に嫁いで、五十年になります。子どもたちも立派に育ってくれました。

息子たちを誇りに思う

長男は遠く離れて暮らしていますが、二十六年経った今も頑張って仕事をしています。いつも北島三郎さんのコンサートのチケットを送ってくれるやさしい子です。

いい人を見つけて幸せになってほしいです。今は母親の私が、息子の婚活しています。私ですか？五十代の頃、子ども達に手がかからなくなった頃に、息子からも再婚しないのかと言われて、考えなくもなかったんですけどね。今は考えていません。もういいです。今が幸せだから。

お蔭さまで、次男もワイン専門店の社長で頑張っています。私は店を手伝っています。あの時の算盤が今も役に立って経理を手伝っています。

それから孫を保育園に迎えに行きます。「おばあちゃん」って言うってくれるのが嬉しくて、たまらなく可愛いです。

はい。孫は小学二年生と四歳です。男の子ふたり兄弟です。孫を見てみると、自分の子が幼かった頃を思い出しますね。苦労させたけど、男の子の兄弟だったから、話し合って助け合ってくれて良かったなと思います。

お店の紹介をしてもいいですか？ありがとうございます！お店の名前は「エスポアナカムラ」です。ワイン専門店です。その日の食事にあわせたワインがほしいと、お客様から言われて次男が選んだりもします。

どうぞ、どうぞ、お待ちしています。

ワイン教室もしているんですよ。今日のおかずに合わせてワインの選び方や、ワインを楽しく飲む方法なんかを、次男が教えてます。基本コースとステップアップコースと。毎月十人二組で、もう三十期生ができました。次男嫁が、料理を作って出します。ワイン教室は人気があつて、申し込みの方には来年まで待ってもらっています。皆さん楽しんでありますう。

五組もカッブルができたんですよ。三組は成立しました。ワインセララーもしています。火曜が定休日です。あらっ、調子に乗って宣伝しすぎましたね、ごめんなさい。

お店の話になると、つい力が入って。ウフフ。

私はワインのことはわからないので、教室の日は孫守です。半分、認知症の入ったおばあちゃんもみえています。九十四歳になりました。

楽しみはたくさん

楽しみですか？はなみずき会って言うのがありましてね。食事や芝居やら観劇もあるし、旅行にも連れてつってもらってます。それから北島さんのコンサートに行くのも楽しみです。高尚な趣味はないんです。田舎者ですから。

でも今は幸せです。自由にしているのが嬉しいです。お店から三軒先のアパートで一人暮らしを始めました。十時からお昼までお店で経理を手伝って、帰って：夕方、孫を保育園に迎えに行つて、それからまた少し仕事して帰ります。

ええ、そうなんです！同窓会もほんとに楽しみですよ。

「お互いに片想いの彼」と会えるから別の意味があるんじゃないかって？そんなことまで考えてませんけど、会えるのはもちろん嬉しいです。

今年の同窓会は原鶴温泉に行きました！

田舎の方が、匙を投げてしないので、福岡の幹事が先頭に立つてしました。

男の子十五人、女の子十五人の三十人で行きました。小中学校が一緒だったから、みんな仲がいいんです。

えっ？七十過ぎて、男の子女の子の子はおかしいですか？でも会ったらすぐ昔に戻るんです。やっぱり、男の子女の子の子、ですねえ。

まあそれにしても、昔のことを根に持つてグチャグチャ言うのは大抵男の子で、何でもなかなか決めきらんじやないですか。

「なん言いようよ！おいでよ！」。って引張るのは、いつも女の子です。私も今年はずいぶん勧誘しましたあ。「おいでよ！」。って。

私たち、辰年と巳年なんです。いえいえ、怖くなんかありませんよ。

でもね、私、巳年なんです。それで執念深いって言われるのがすごく嫌なんです。えっ？さっぱりしてありますか？ありがとうございます。良かった。ウフフ。

最高にわがまましています

これから自分のためにしたいこと、ですか？

そうですね、健康管理でしょうか。お医者さんからも、「去年と今年の体重が変わってないので大丈夫」って言われました。

自分の健康を維持するために、これからも、わがままに生きていきたいですね。思うままに生きていきたいですね。

今、最高にわがまましています。

それが幸せです。

今、そうさせてもらってます。社長の息子はやさしいんです。未年ですから。

取留めのない話を色々しました。ごめんなさいね。ありがとうございます。

あとがき

聞き書きがちつとも進まない十一月のある日、私はエスポアナカムラに足を運んでみました。お店の前に佇み、日野さんの毎日を思いました。

この空気を吸って……この坂道を歩いて……保育園はあれかしら……住んでおられるアパートはあれかしら……ストーカーまがいの自分の行為に苦笑しつつ、お店の写真を撮らせていただきました。

住宅街の中にあるお店の前を、人や自転車や車が行き交います。お店のドアに貼ったチラシを眺めていると、ドアが開いて、中から「いらっしやいませ！」と明るい声。

他のお客さんにかけて声なのに、私もつられて会釈し、お店に入りました。正面からじつと目をみて話す仕草が、日野さんに似ていて、すぐに息子さんとわかりました。「実は先日、聞き書きで……」と話したところ息子さんは、

「母は波乱万丈な人生を生きてきたようですから、書き残せたらいいねって、日頃から話していたんです。いい機会でした。でも実際には話せないことも多かったので、緊張したらしいです。今はホッとしてるみたいですよ」と。

その夜、私は日野さんに憑依したつもりで、聞き書きを書き終えました。

「でも今は幸せです」耳に残っている日野さんの、凜とした声。

どうぞこれからも、その体いっぱい漲る力で、ご活躍ください。

ありがとうございました。

平成二十六年十一月十一日